



(社)日本建築美術工芸協会 2010.10.

(社)日本建築美術工芸協会

No.58 2010.10.

# CONTENTS

平成22年度予算総会 ..... 1

講演

三菱一号館美術館開館へ向けて ..... 1

恵良 隆二氏 三菱地所株式会社

第22回 aaca 建築と文化を語る夕べ

岩見沢複合駅舎 ～時を繋ぐ素材と技術、そして人～ ..... 2,3

西村 浩氏 株式会社ワークヴィジョンズ代表

平成22年度通常総会 ..... 4

特別講演

東京スカイツリーの今 ..... 4,5

川瀬 俊二氏 株式会社大林組

第4回卯月展 ..... 6

第172回 aaca フォーラム

オランダ研修報告会 ..... 7

露口 典子氏 aaca 情報文化委員会副委員長/  
アートアソシエイツ八咫主宰

第173回 aaca フォーラム

奇跡のピアニストによる～ピアノとトーク ..... 7

長井 充氏 ピアニスト

第14回アートパラダイス展 ..... 8

新入会員・会員の移動・その他 ..... 9

# 平成22年度予算総会

開催日：2010年3月17日（水）

会場：建築会館1階ホール

主催：（社）日本建築美術工芸協会

## あいさつ



中島会長

中島会長 皆様ようこそお忙しいなか、多数の出席いただき感謝申し上げます。

昨年、20周年記念事業を会員の皆様の献身的活動により目標を達成することが出来ました。特に今期は長年堆積しておりました運営の多くの問題点が逐次明確になり改善を進めることが出来ました。これは文化庁と接点も多くなりいろいろ御意見を伺うことも出来ました。したがって22年度は会員のための体制づくりに私は勤める所存でございます。協会の発展存続のためには財務の健全化が重要な課題です。当協会の構成は他には見られない異業種の方々の集まりであり、その特質を活かし会員の増強を目指し、事業を益々盛んにし、財務に貢献することを目標と致します。運営上の体制及び会員の増強により事業の実施による財務の安定を目指し、会員の皆様の御協力をお願いいたします。それでは、22年度の予算総会を始めさせていただきます。

### 議案の経過

- ・ 第1号議案平成22年度事業計画の承認の件
- ・ 第2号議案平成22年度収支予算書の承認の件
- ・ 第3号議案平成21・22年理事・監事選任の件  
以上賛成多数で可決されました。

## 講演

# 「三菱一号館美術館

## 開館へ向けて」

開催日：2010年3月17日（水）

会場：建築会館1階ホール

主催：（社）日本建築美術工芸協会

講師：恵良 隆二氏（三菱地所株式会社 ビル事業本部 街ブランド企画部長兼三菱一号館美術館開設準備室長）



なぜ美術館を造ったか、今後どんな展覧会をやるかと言った御説明をさせていただきます。

美術館は、丸の内のまちづくりという大きな流れの中で生まれてきたことと、もう一つは、三菱一号館を復元するということの両方が考えられます。

丸の内をビジネス街だけでなく活気のある都市にしていく、賑わい・交流のあるまちにしていこう、さらに2007年の新丸ビルを契機として「文化」「環境」といった、広い意味で街の価値を高めるという流れの中で三菱一号館を復元する。復元計画の折には、建築・都市計画の先生方と議論させていただき、やはり正確に復元しようということになりました。

三菱一号館は、もともとはオフィスビルですが、復元した建物は皆さんに建物内を見ていただく、体験的要素を持たせることでその公開性が街の価値を高めることに繋がる。そして公共的・公益的な用途を目指す。さらにいろいろなものを混ぜなくてもよく正確に復元できるということで美術館ということになりました。それでどういう美術館にするか基本的な考え方をお話します。民間でやる美術館ですから、丸の内開発の一環の中で位置づけていく。そして美術館を維持していくためには、長期的な事業の裏づけが無いといけません。そこで街のブランド力を向上させる意義を持つ役割になるということです。たぶん3つくらいの要点がありまして

1. 都心に立地しているため、いろいろな方に利用していただける。丸の内が文化の拠点となる街づくり。そして地域の文化施設や周辺にある美術館と連携することで地域の文化的価値を高めエリア内の企業の方々に利用いただくことを目的とする。具体的には水・木・金は夜8:00まで営業する。

2. 三菱一号館の名にふさわしい美術館とする。大きな意味で三菱がやっている三菱一号館という名がベースとなっている、そして百年以上にわたる街の歴史を踏まえ、それをしっかり認識して役割をはたす。建物の時代性を踏まえた1894年日本の近代に果たした建物の役割を考える。そのために19世紀末の美術品を中心として展示していく。

3. 展覧会の考え方で企画展主体の美術館を考える。都市文化に立脚した近代美術を中心とした展示をする。個性的でAクラスといわれる企画に努める。出来るだけうちの美術館学芸員による視点で組み立てていく運営をする。国内外の美術館と交流を密にし、場所が近い展覧会とグループごとに連携する。

以上のような考え方で進めております。

最後に三菱一号館は三菱地所の事業ではありますが、大きくは丸の内全体を我々のビジネスエリアとしてやってきています。丸の内の美術館ということで御理解いただけるのが一番有難いところでいろいろな意味で御利用いただければと思います。これから美術館として研究活動、社会教育、学芸員による専門領域の研究成果も展覧会に活かしていきたいと思っております。地域への情報発信の役割、また千代田区に存在する美術館ですので千代田区さんとどんなことができるか相談してまいります。何から何までは出来ないかと思っておりますが、4月オープンを目指してがんばっておりますのでよろしくをお願いいたします。

（文 長谷川 亨）

## 第22回 aaca 建築と文化を語る夕べ

# 「岩見沢複合駅舎

## ～時を繋ぐ素材と技術、そして人～

開催日：2010年5月18日（火）

会場：福德茶屋

主催：（社）日本建築美術工芸協会

講師：西村 浩氏（株式会社ワークヴィジョンズ代表）

2010年5月18日（火曜日）風が急に強くなった18時から、日本橋室町にある福德茶屋で、西村浩氏（株式会社ワークヴィジョンズ代表）の講演会が行われた。

テーマは「岩見沢複合駅舎一時を繋ぐ素材と技術、そして人」

西村氏は、1967年佐賀県生まれ、東京大学工学部土木工学科卒業、同大学院工学系研究科修士課程修了後、GIA設計に勤務、1999年にワークヴィジョンズ・アーキテクト・オフィスを設立。現在は株式会社ワークヴィジョンズ代表である傍ら、北海道教育



西村氏

大学芸術課程特任教授、東北大学、日本大学でも非常勤講師として学生たちの指導にもあたられている。

岩見沢複合駅舎は、『2009年度グッドデザイン大賞』をはじめ『2010年日本建築学会賞（作品）』受賞の他、数々の賞を受賞した作品であるが、西村氏はダムや橋梁に代表される「土木」、プロムナードや公園・遊歩道のような「ランドスケープ」、「建築」、「インテリア」、そしてなんと「グラフィックデザイン」までを手掛けられており、そのフィールドの広さに驚く。講演の冒頭、西村氏はこれらのフィールドの違いを『時間のスケール』だと語られた。そして「岩見沢複合駅舎」に必要とされる『時間のスケール』を考えたときに、この駅舎に求められる「価値」を見出すことができた。

ではここで西村氏の講演を西村氏の言葉を要約して紹介しよう。

### ■駅からまちづくりへ

まちの未来を見据える舞台として岩見沢複合駅舎は、2000年12月に焼失した歴代3代目の駅舎を市の施設と合築して再建された。岩見沢は石炭産産を背景に物資輸送の要衝として栄えた鉄道のまちである。最盛期には岩見沢操車場（機関区）は東北以北最大の規模となり、駅職員は500人を優に超えるほどであったそうだ。当時の古い写真を見ると、駅舎こそ木造平屋の簡素な建物であったが、周辺には堅牢なレンガ造の機関庫や工場が所狭しと立ち並び、そこには国力の増強に価値を置いていた殖産興業時代の活気あふれる風景が



あった。しかし、今、岩見沢の中心市街地は、多くの商店がシャッターで閉じられ、家屋が解体された後の空き地が駐車場といった具合である。賑わいのない典型的な地方の姿である。この時代に生まれる新しい岩見沢駅舎には、建築という枠を超えてまち再生へ向かう強い意志が求められている。そこで、この駅舎が「まちの顔」となり、再びまちが賑わいを取り戻す契機となるよう、岩見沢が最も活気に溢れた明治大正期の記憶を未来に伝えたいと考えた。

戦後、日本全体が経済的に豊かになることを総体の価値として、高度成長期—バブル期を通して成長を遂げてきた過程で見失ってきたまちの歴史や文化の記憶について、今一度見つめなおし、個性ある「誇るべき地方」を再生する試みとして、過去から未来へとまちの記憶をつなぐ『時のデザイン』を求めたのである。

### ■まちとつながり、まちに賑わいをもたらす「真っ赤な顔」—レンガ—

明治・大正期、石炭輸送の最前線として岩見沢のまちが繁栄をきわめていた頃、駅周辺には多くのレンガ造の工場や倉庫が存在した。建築資材としてのレンガは鉄道の発展史と密接な関係がある。当時の繁栄の記憶を現代に伝え、雪深い冬においてもまちを元気づけてくれるような「真っ赤な顔」を彩る素材として北海道産のレンガを北海道特有の伝統工法である「小端空間積み」の表情で取り入れた。

### ■「鉄道のまち」の記憶をつなぐ—古レール

複合駅舎の大きなガラス面を構成するカーテンウォールには総数232本



古レールと刻印レンガ

の古レールを使った。これらは北海道内で実際に使われていたレールを、JR北海道にお願いして複合駅舎のために集めてもらったものである。カーテンウォールのマリオンとして再利用する技術は国内初の試みであり、溶接試験や塗装実験を繰り返し、様々な技術的な難題を乗り越えて実現したものである。

■建築という枠を超えて未来へつなぐーまち再生へむけてー建設の過程では、市民有志の方々と共に設立した岩見沢レンガプロジェクト事務局を中心に様々な活動を行ってきた。駅前広場に面した総長137m、高さ2.5mの外壁には「らぶりっく！！いわみざわーひとつのレンガがまちをつくるー」を合言葉に世界中から募った参加者の名前と出身地を刻印したレンガ4777本を積んだ。

駅開業にともなって解体された仮駅舎に感謝の気持ちを込めて開催した「ありがとう！仮駅舎」や刻印レンガの公開とあわせて駅前広場のシンボルツリーを点灯した「らぶりっく！イルミネーション」などである。そして駅完成後も、市民や学生たちはこうした取り組みを継続している。いま再び「人と人のつながり」が駅という枠を超えてまちへと広がっているのである。

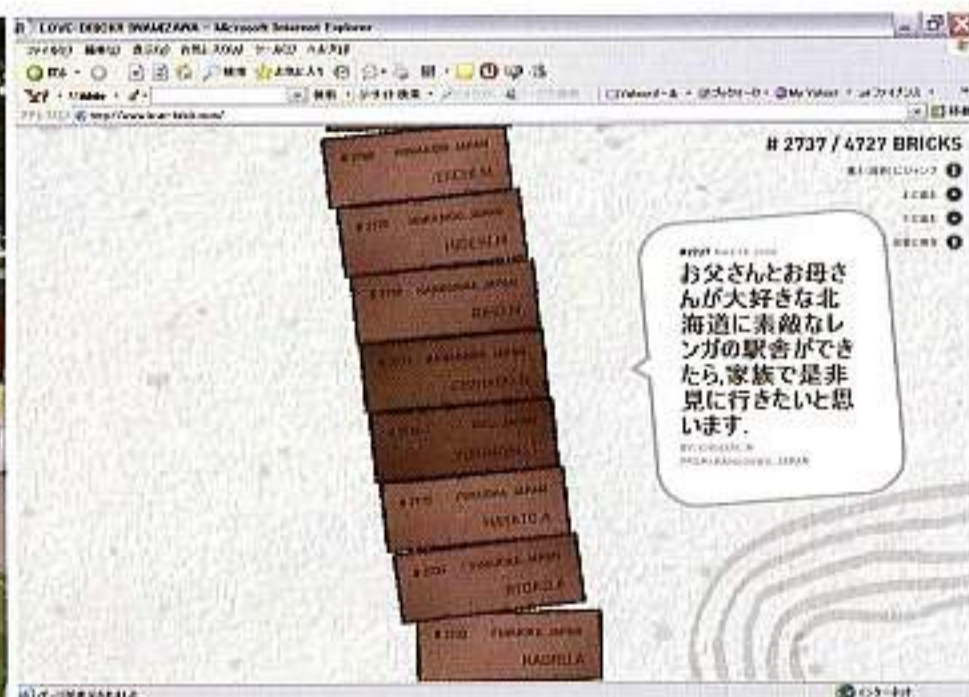
駅からまちづくりへ。歴代4代目となる岩見沢複合駅舎の本当の価値は、「地域のよさを掘り起こし、人と人とのつながりを再生しながら、建築という枠を超えてこれからのまちづくりに繋げていくことにある。

およそ1時間半の講演は、あっという間であった。西村氏は岩見沢複合駅舎で、建築という「モノ」だけではなく、モノから起こった「コト」の大切さと価値にこそ意義があるという言葉で講演を終えられた。また「建築は完成して初めてその使命が始まり、時の経過とともにその価値が問われる。大切なことは、未来に向かってしっかりと“バトン”を渡すことであり、建築という行為によって生まれた新しい価値を、持続的に地域に浸透させるための仕掛けづくりである。」という西村氏の視線は、ずっと先の未来を見据えているのだろう。何かと慌ただしく、目先のことにばかりとられがちな現代社会において、まことに感慨深く、力強い講演であった。あらためて紙面を借りて西村氏にお礼の言葉を申し上げたい。

文化事業委員会 森田高年（不二窯業株式会社）



「ありがとう！仮駅舎」イベント風景



「らぶりっく！！いわみざわ」のホームページ



会場風景



福徳茶屋

# 平成22年度通常総会

開催日：2010年6月14日（月）  
会場：建築会館1階ホール  
主催：（社）日本建築美術工芸協会

## 会長挨拶 中島会長

会長といたしまして平成22年度の協会の運営についての所信を申し上げます。  
まず過日の設立20周年記念事業は、一昨年・昨年にわたりました会員の御協力と御協賛をいただきまして無事成功いたしましたこと厚くお礼申し上げます。本来ならば叶わぬこととわかっておりますが、私の気持ちにおいては1人1人とお話ししていただければと思っていたわけでございます。

あらためてaacaの設立を思い起こしますと1988年11月に社団法人設立許可があり、同年12月15日に日本建築美術工芸協会の設立記念会をこの建築会館においておこないました。当日は猪熊玄一郎さん、岡本太郎さんをはじめ多くの方が参加され、参加者の高らかなご歓談がいまでも忘れられません。当時のわが国は経済大国を謳歌する時期でしたが、会は文化立国を目標に掲げ、意思を表明して参りました。

以後、会は目標に向かって事業を多角的に進めて参りましたが、ここ近年、経済の悪化も厳さを増し、国際状況の変化と合わせて、個人の嗜好の変化も目だつて参りました。設立当時の再確認と同時に、このaacaの将来がどうあるべきかを考える年にしたいと思っております。また皆様すでに御存知のH20年12月より公益法人制度に伴う新制度が施行されましたが現在、法人法の要件及び認定法の基準が確かでないことがわかり、これは所管である文化庁との対話の中で明確にしていく所存であります。そのために併行して定款、細則の改定につきましても文化庁と調整して参ります。

協会の運営につきましては、難しいことと思いますが経済基盤の安定が直面している課題です。まずは会員の増強が急務であると思えます。最後ですが会員皆様の御理解、御協力、御支援をいただき、今年度は努力していきたいと思っております。本日はお忙しいところ御出席いただき感謝申し上げます。

### 議事

出席会員237名（出席63名、委任状提出者174名）

正会員総数436名の過半数を越え、総会は成立

第1号議案 事業報告に関する件

第2号議案 平成21年度貸借対照表その他に関する件

第3号議案 長期会費滞納会員の取り扱いに関する件

上記議案賛成多数で承認可決。



中島会長

## 特別講演 「東京スカイツリーの今」

開催日：2010年6月14日（月）

会場：建築会館1階ホール

主催：（社）日本建築美術工芸協会

講師：川瀬 俊二氏（株式会社大林組）

皆様こんばんは大林組の川瀬でございます。

東京スカイツリーは電波塔として世界一の高さに向けて東京都墨田区に建設中です。私共大林組が施工を担当しております。

今日は、主として建設工事や技術的側面をご説明しますが、日建設計さんが設計で、いろんなデザイナーが参画されていますので、プロジェクトの背景や設計デザインにも少し触れさせていただきながら、東京スカイツリーとはどんなものか、どのように実現に向っているのか、といったところをお話させていただきます。

今日のキーワードは「押上」で、景気も皆様の元気も押し上がって行けばよいと思っております。スカイツリーの足元は商業施設・文化施設・オフィスが入る建物が計画されています。

要点を4、5ポイントかいつまんでいいますと

- ・2011年12月・・・ 竣工予定でございます。
- ・634m・・・ムサシということで電波塔としては、世界一の高さとなります。
- ・350m・450m・・・ふたつの展望施設の高さでございます。
- ・1000名・・・現場のワーカー数です。
- ・2500万人・・・年間集客数予測。東京ディズニーランドが現在2500万人でこれが希望的数ですが今後の推移を見ていきたいと思っております。

何と言っても東京のライジングイーストということで東街区を元気にしようということで最寄り駅が押上・業平橋・曳舟このあたりが今日のキーワードで、これがなぜか工法に密接になってきます。

建築主は東武鉄道（株）、東武スカイツリー（株）、設計監理（株）日建設計で、施工を当社でさせていただいていま



す。aaca副会長澄川先生がデザイン監修をされています。

敷地は東武伊勢崎線と北十間川ではさまれたかつて鉄道ヤードであった細長い敷地です。中心にそびえるタワーの足元には商業施設がはいる低層棟、オフィスがはいる高層棟が建設されます。工事は中心のタワー街区と両側に西街区・東街区で、当社はタワー街区を単独で、東街区をJVで受注しております。

東京都心部では超高層ビルの増加にともないまして電波障害の被害が増えてまいりました。これを低減することを目的とするとともに地上デジタル放送の開始を見据えまして、2003年12月にNHKと民放5社そろいまして600m級の新しい電波塔を求めて「在京6社新タワー推進プロジェクト」を発足させたのです。

当初ここに掲げておりますさまざまな敷地が名乗りを上げておりましたし、東京タワーを改修して30m高くする案もありました。

敷地はいくつかの候補がありました中で、2006年3月墨田・台東地区に決定。最終的にインターネット投票により「東京スカイツリー」という名称となりました。東京スカイツリーは鉄筋コンクリート造、骨格は鉄骨トラスのハイブリッド構造となっております。

設計コンセプトで事業主の掲げた「時空を超えたランドスケープ」そのキーワードは日本の伝統文化を体現し強くしなやかに美しくあれという形を求めています。タワーの足元が正三角形で、上に延びるにしたがって円形になる連続的に変化する絶妙な形になっております。日本古来の美意識にもとづくしなやかな立ち姿ということだそうです。

スカイツリーの構造の特徴はスレンダーで高いということです。東京タワーは足元の幅が95mに対して高さ333mでその比が1:3.5であります。一方スカイツリーは足元が巾68mに対して高さが634m巾と高さの比アスペクト比が1:9.3であります。



形として細くて高いということは、倒れないようにするために工夫が必要で、構造的に振動周期があり、ゆれやすいということになります。実際に強風や地震などによりタワーに横向きの力が加わりますと、一方から引き抜き一方から押し込むという大変強い力が加わります。これに対抗するために強力な足元を固めなければなりません。そこでスカイツリーでは大林組が開発したナックルウォールという節付き壁杭を採用しております。

これは鉄筋コンクリートの壁を地中に縦横に構築してそれを壁杭として使い、加えて其の壁に節のようなものがございまして、これが引き抜きや押し込みにより強く対抗するということとございます。

ゆれやすいという特徴に対しても電波塔の、大変な性能であります。五重の塔の構造を参考にした中心を貫く鉄筋コンクリート造の心柱と外側の鉄骨造によるハイブリッド構造となります。地震の力に対して心柱と鉄骨造がそれぞれ違った動きをして、この2つをオイルダンパーでつなげることでゆれを吸収する。

タワー上部のアンテナ鉄塔は一段と細いこともありまして、さらにゆれやすく、そのままでは放送電波の受信の影響が出ます。そこでアンテナの頂上に逆振り子制震装置というものを付けまして、風や地震によるアンテナのゆれを防ぎます。タワーを構成する鉄骨は標準的な鉄骨よりも強度の高い高強度鋼管を使用しております。

トラス構造の概略を説明いたします。

中心部には鉄筋コンクリート造の心柱、そのまわりにE/Vや設備配管が入るシャフトの鉄骨が円形の内筒を構成しています。三角形の頂点に位置しているのは鼎トラスです。鼎というのは青銅器時代の3本柱の器のことで、今風に言えば三脚の脚ということになります。鼎トラスが三方をしっかりと踏ん張ることでタワーの地上架構を構成しています。

水平方向には一層ごとにリングトラスが配置されておりまして、垂直方向には三辺の中心にリブトラスがあり、柱材斜材と合わせて外筒という骨格を構成しており其の内筒と外筒は2層ごとに水平トラスによってつながれており、制震ダンパーにより全体として強固でしなやかなタワーを構成しております。

次に全体の施工手順をご説明します。

ナックルウォール杭を構築します。この壁杭を地中深く鉄筋を挿入、コンクリートを流しこんで壁を作ります。次に地下と低層部を構築します。タワー鉄骨の足元の三箇所は基礎天端で鼎が出てきます。その後タワークレーンで外側より鉄骨を下から積み上げる積層工法でひとつずつ鉄骨を450mの高さまで積みあげていくという大変な作業となります。一番上のアンテナの鉄骨は高所での安全性や品質構成上の問題をクリアするためにリフトアップ工法で設置します。タワーの中心部の空洞、その中でだるま落としのような順で下から押上ながら組立てます。

次に組み上がったアンテナ鉄骨を引き上げます。押し下りひいたたりと地域に根ざした工法です。

塔のうえからアンテナ鉄骨の頭が出ましたら、アンテナ設備をとりつけながら一段づつリフトアップし、最後にこのタワーの中心空洞部に直径8mの鉄筋コンクリートの心柱を構築します。

10月より始まるスリップフォーム工法は型枠をゆっくりひきながら連続的にコンクリートを打設する方法ですが、大林組のもっとも得意とする工法です。心柱の構築でタワーの骨格が完成しまして後は内装外装設備工事で完成です。

2011年12月に建設工事が完成。その後放送施設の設置が行われ2012年春に開業予定です。旧約聖書のバベルの塔の時代から、とにかく上へ上へと高い鉄骨を造ることは人間の夢でありまして世界一のタワーを作ることと建設業としてはこれ以上のやりがいと緊張感はありません。今後も注目されつづけるとは思いますが無事完成の日までがんばって参りたいと思います。

(文 長谷川 亨)



## 第4回卯月展

開催日：2010年4月12日(月)～18日(日)

会場：建築会館ギャラリー・イベント会場

主催：(社)日本建築美術工芸協会

企画 長谷川亨(建築家)

雨山智子(テキスタイル造形)

片岡雅子(七宝)

鮫島貴子(立体造形)

野口真理(陶)

渡邊たまえ(彫刻)

内田滋子(彫刻)

佐藤静子(布・染・織)

中村弘子(ステンドグラス)

山崎輝子(皮革)

卯月展も今回で第4回目となり「起承転結」の「転」に当たる時期と捉え、今回は少し発展したテーマに取り組みました。卯月展の基本コンセプトである「生活空間を意識し今を表現する。」から毎年サブテーマを掲げ展開していますが、今年は今この大変な時代に私達卯月の作家は何ができるのであろうかと「共に生きる舞台」というテーマにたどり着きました。作家それぞれが生活の中で感じ追及していることがそれぞれの表現の中で幅広く捉えられたのではないかと思います。屋外の展示は自然との共生も意識したものです。ポートフォリオの中でもいろいろ発展させています。人間彫刻パフォーマンスのシバさんもオープニングの会場の中に花を添えてくださいました。又今回はユーチューブに卯月展の様子が動画で配信されています。どうぞそちらもご覧下さい。会期中400名ほどの来場をいただきました。来年は「結」の時を迎えます。この卯月展がどの様に収束して行きますか、どうぞ来年もご期待下さい。ありがとうございました。

卯月展一同





## 第172回 aaca フォーラム 「オランダ研修報告会」

開催日：2010年3月24日（水）  
会場：千代田区区庁舎会議室  
主催：（社）日本建築美術工芸協会  
講師：露口典子氏（aaca 情報文化委員会副委員長／アートアソシエイツ八咫主宰）



第172回フォーラムは3月24日千代田区区庁舎会議室に於きまして、昨年度文化庁海外研修でオランダに3ヶ月間滞在した、文化環境プロデューサー 露口典子さん（aaca 情報文化委員会副委員長／アートアソシエイツ八咫主宰）の報告会を開催いたしました。

パブリックスペースにおけるアートの視点から『オランダ 80 日間見聞記』と題しまして、オランダでのパブリックアートや街の様子など写真を交えながらわかりやすくお話いただきました。当日はあいにくの雨にも関わらず 123 名もの皆様にご参加頂き、フォーラム委員一同感謝を申し上げます。

出島時代から日本と交流の深いオランダは、17世紀の黄金時代に貿易で世界に名を馳せました。その国土は九州とほぼ同じ面積です。13世紀頃から干拓に取り組み、今では国土の約20%以上が埋立てにより、また、その30%が海面より低いそうです。そのため、早くから自然と都市をトータルに捉え、行政も都市プランナーや建築家、そしてアーティストと共に、皆が水平関係で協議をすることで、オランダを美しい風景と心地よい環境を創り上げる努力を長期にわたり行ってきたそうです。

日本建築美術工芸協会（aaca）は、建築、美術、工芸など、様々な分野の人たちと、豊かな芸術環境の創造を目指す文化庁所轄の社団法人です。パブリック（公共）空間におけるアートの視点から、露口さんが見てきたオランダ。今後の日本のアート環境作りに、何かしら役立つのではないのでしょうか。また今後は、日本と欧米のシステムの違いを理解しつつ、お互いの良い所を見つめ直しながら、よりよい社会環境を作り上げるヒントとなったことを、確認した次第です。

中村 茂幸（フォーラム委員会・情報文化委員会／造形作家）



## 第173回 aaca フォーラム 「奇跡のピアニストによる ～ピアノとトーク～」

開催日：2010年6月25日  
会場：JIA 建築会館  
主催：（社）日本建築美術工芸協会  
講師・演奏：長井充氏（ピアニスト）

第173回 aaca フォーラム・奇跡のピアニストによる「ピアノとトーク」が梅雨真っ只なかの平成22年6月25日、神宮外苑にあります JIA 建築家会館にて行われました。数奇な運命をたどられた長井充氏が70歳を過ぎてピアノ演奏を再開されたその音色は年齢を感じさせない自然で優しく癒しそのものでした。誰もが子供のときから聞いた事のあるショパン、モーツァルトのポピュラーな曲が、はじめて耳にする宝石のような曲に変身していました。

長井氏は絶望に瀕して生き返られた24歳のときピアノの音色も生き返ったそうです。天与のもの努力ではないとおっしゃっていますが、今も5時間の練習には頭がさがります。ピアノを真ん中にして聴くサロン形式はユニークでほかに類を見ません。トークはユーモアとウィットに富み、笑いの渦に人々をひきこみました。

最後にリストの「ラ・カンパネラ」がアンコールされ、日本人の手は小さいので弾くのは大変難しいといいつつも、あの大変な曲を難なく弾き終えられました。100人の聴衆がため息と感動に包まれた一夜でした。

村松勢津子（フォーラム委員）

### 長井 充氏 プロフィール

1934年 大阪生まれ

1961年 東京藝術大学卒業

1961年より33年間武蔵野音楽大学ピアノ科に勤務

イスラエル・オーストリアに留学／東京・大阪その他各地で演奏会を開催

ピアニスト・長井充氏は東京藝術大学在学中に両手が麻痺し、回復不可能の病気にかかられましたが恩恵により奇跡的に治り、その後武蔵野音楽大学で教えられました。現在、奇跡のピアニストとして活躍されておられます。



長井 充氏

# 第14回 アートパラダイス展

テーマ：ムソルグスキー「展覧会の絵」

開催日：2010年6月14日（月）～26日（土）

会場：建築会館 ギャラリー・イベント広場

主催：（社）日本建築美術工芸協会



安河内敦子



鍵井保秀

糸屋 正（プロデューサー）川原 昭（造形作家）  
安河内敦子（造形作家） 鍵井保秀（アーティスト）  
関 玄達（造形作家） 山本秀明（美術家）  
大河内久子（彫刻家） 上田 快（彫刻家）

音楽の空間をアートで表現するとどうなるか。  
ロシアの作曲家モデスト・ムソルグスキー。  
彼の親友で急進的建築家ピクトル・ガルトマンの  
遺作展からインスピレーションを受けて作曲した  
傑作、組曲「展覧会の絵」をモチーフにします。  
各作家は担当するパートより受けた感動を立体で  
表現します。  
音感と視覚、それぞれ素材を異にしながらの表現  
は、建築空間でどう響き合うかが楽しみです。



関 玄達



大河内久子

山本秀明

川原 昭

上田 快



敬称略

## 個人会員

(平成22年1月1日～8月31日現在)

山岸 嘉	〒103-0016	東京都中央区日本橋小網町 18-7 小網ビル 5F	☎ 03-6667-5866	㈱J. クリエイト
渡辺雅子	〒154-0014	東京都世田谷区新町 2-38-24 川上様方	☎ 03-3425-6220	
森 暢郎	〒169-0074	東京都新宿区北新宿 3-20-1-401	☎ 03-3369-6060	㈱山下設計
上田 快	〒408-0021	山梨県北杜市長坂町長坂上条 395	☎ 0551-32-6241	Kai Studio
小島純子	〒102-0072	東京都千代田区飯田橋 1-12-14 宮島ビル 302	☎ 03-3239-5128	エヌ・エフ・ジェイ㈱
関 孝行	〒248-0002	神奈川県鎌倉市二階堂 735	☎ 0467-25-2223	
山本 桂	〒240-0062	神奈川県横浜市保土ヶ谷区岡沢町 22-87	☎ 045-334-5058	

## 法人会員

㈱インターデコム	〒105-0001	東京都港区虎ノ門 1-20-9 松栄虎ノ門ビル	☎ 03-3502-1056	代表取締役 松阪靖二 専務取締役 中谷 均
----------	-----------	-------------------------	----------------	--------------------------

## 会員の移動

㈱メックデザイン インターナショナル ㈱TAKプロパティ	住所変更: 〒104-0054 東京都中央区勝どき 1-13-1 イヌイビル・カチドキ 電話変更: 03-6707-0100 社名変更: 旧社名 ㈱TAK リアルティ 代表者名変更: 代表取締役 大神正篤
㈱山下設計	代表者名変更: 代表取締役社長 田中孝典 担当者名変更: 篠島 亮 電話変更: 03-3249-1531
㈱坂倉建築研究所	代表者名変更: 代表取締役 東 泰規 住所変更: 港区赤坂 9-6-14
戸田建設㈱	担当者名変更: 建築設計統括部設計管理部事務課 横山 茂 住所変更: 中央区京橋 1-7-1 TODABUILDING 電話変更: 03-3535-1501
芦原建築設計研究所 大成建設㈱	代表者名変更: 代表取締役 芦原太郎 担当者名変更: 設計本部副本部長 芝山哲也
㈱竹中工務店	代表者名変更: 常務執行役員 北 泰幸 担当者名変更: 設計本部設計管理部長 宮木宗和
㈱クマヒラ	担当者名変更: 営業推進部営業推進課 内村清人

## AAQA理念

建築家、美術家、工芸家その他の人びととの連携と協力により、豊かな芸術的環境の創造と保存を図り、これを通じて日本文化の向上、発展に寄与する。

### 会員投稿記事募集中

会員の皆様の作品紹介、活動報告、展覧会、個展等のご案内  
企業の広告・出品展等のご案内を会報に掲載いたします。  
詳しくは事務局にご相談下さい。

### 会報について

会報へのご意見、ご希望をお寄せ下さい。(広報委員会)

発行 社団法人 日本建築美術工芸協会  
〒108-0014  
東京都港区芝 5-26-20 建築会館6階  
Tel 03-3457-7998  
Fax 03-3457-1598  
Url <http://www.aacajp.com>  
E-mail [info@aacajp.com](mailto:info@aacajp.com)

編集 広報委員会  
長谷川 亨 石田 真人 北村 孝昭  
瀬川 秀之 竹生田 正 中村 弘子  
野口 真理 山崎 輝子

事務局

印刷 美和野印刷株式会社